



# STOP! the <sup>や ん ば</sup>ハッ場ダムニュース

IN 埼玉

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

No. 44

2016年4月18日



## ハッ場ダムのこれから

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会・代表 河登一郎



この度、私は前代表の藤永知子さんに代って「ハッ場ダム埼玉」の代表に推されました。

私自身既に後期高齢者ですので、そろそろこの種の社会的な仕事から手を引こうと思っていたところですが裁判も終わったし、「最後のご奉公」として引き受けることにしました。

しかし考えるまでもなく、ハッ場ダムにはまだ残された問題がたくさんありますし（後述2）、しかも嶋津さんという稀有な運動家を中心に1都5県の市民と弁護士で10年以上進めてきたこの運動には、今後の日本の民主化運動及び財政問題（公共事業の進め方）に関して多くの示唆を与える運動でもあります。

そういう意味を含めて、私は「ハッ場ダム埼玉」だけでなく関連団体と一緒に、その他の問題についてもできる範囲でフォローして行きたいと考えます。

具体的には以下のような諸問題があります。皆さまのご協力を切にお願いする次第です。

### 1. 「ハッ場ダム埼玉」としてのフォローアップ

- 1) 総工費増額（及び工期の遅れ）については、いずれ国交省から各都県に連絡が来るはずですが
  - それに対して、各都県は従来から「反対」と云ってきたわけですから、当然否定の態度を継続すべきです。
  - この点に関して埼玉県に対してそれを拒否する建設的な理由を提示したいと考えます。
- 2) ハッ場ダム本体工事をチェックします
  - 本体工事は既に始まっていますが、これからの工期の中でまだいろいろな問題があります。
  - 一番心配な点は、ダムサイトや貯水池周辺の地

質（非常にもろい部分が多い）や

鉄鋼スラグなどの問題ですが、その他にもいろいろあります。

- 私たちは、それらをきちんとフォローしなければなりません。

### 3) 内水氾濫に関する情報の提供及び対策案の提示

- 近年の埼玉県内の水害の多くが内水氾濫（堤防の外側に降った大雨がマンホールなどを通じて溢れ出すもの）であること及び、上流でのダムがそれに対してあまり効果がないことを証明した情報を提供し、それに対して費用の安い防水方法を提案する。

### 4) 上記を推進するために

- メディアの活用（情報提供及び説明会、PRなど）
- 県議会で比較的反対的な会派とのコンタクト継続
- 県行政への建設的な提言

### 2. ハッ場ダム反対運動の広がりへの協力

- 1) 鬼怒川水害の原因特定及び埼玉県での同様な環境下での再発防止案提言
- 2) 荒川上流ダムの再チェック及び玉淀ダム撤去の検討
- 3) 市民版荒川水系河川整備計画策定
- 4) その他県内の水問題検討
- 5) スーパー堤防、霞ヶ浦導水事業、リニア新幹線、石木ダムなど巨額の公共事業への反対継続

皆さま、上記のような問題提起は「ハッ場ダム埼玉」としては若干問題を広げ過ぎだと云うご指摘もあるとは思いますがあえて触れました。一緒にがんばりましょう。

2016年3月吉日

## ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会 2016年総会報告

### 2016年度 活動 方針

ハッ場ダムの基本的な問題を追及し  
河川行政のあり方や税金の使われ方など  
根本からの変革を求める活動に取り組む  
講演会や学習会などを開催し、埼玉の会ブログ  
やニュースで情報の発信と共有を図る

去る3月19日（土）さいたま市浦和コミュニティーセンター第8集会室にて、2016年総会が開催されました。議長に大西将之さんが選出され、議案Ⅰ2015年度活動報告および決算報告、議案Ⅱ2016年度活動方針（案）および予算（案）、議案Ⅲ役員の改選が審議され、出席者の賛同を得て可決されました。

2015年度活動報告では、12年間にわたる「ハッ場ダム公金差し止め」の住民訴訟が住民敗訴で終わり、裁判によってハッ場ダムをストップさせることが出来ませんでした。

現地では本体工事が昨年1月から進められています。ハッ場ダムが抱える問題は何一つ解決されていない中、新たに大同特殊鋼（株）の鉄鋼スラグ問題も起こり、今後も私たちは、ハッ場ダム工事を監視して、ハッ場ダムの不要性、不当性を訴え、活動をしていくことを確認しました。

2016年度活動方針は、ハッ場ダムの基本的な問題を追及し、河川行政のあり方や税金の使われ方など、根本からの変革を求める活動に取り組み、講演会や学習会などを開催し、埼玉の会

ブログやニュースで情報の発信と共有を図っていきます。（ハッ場ダムを埼玉のストップさせる会ブログ：<http://yambasaitama.blog38.fc2.com/>）

役員の改選では、長く務めていただいた藤永知子さんに代わり、河登一郎さんが代表に選出されました。

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会は、「ハッ場あしたの会」や「ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会」などの関係団体と連携して活動を進めて行きますので、今後も皆様のご支援ご協力をお願いします。



川原湯地区（水没予定地）の自生地に咲く希少なカザグルマ（環境省レッドデータで準絶滅危惧種）



### ◎2016年度会費の納入をお願い！

当会の活動は、皆様の会費やカンパによって支えられています。

年会費：2,000円（2016年1月～12月）カンパ歓迎

郵便振替口座：0180-2-334-064

加入者名：ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

## 総会でのお話（政治の場と、司法の場から）

### 大法廷開けず 残念 「司法は逃げた」と思う

＊野本夏生弁護士

#### ●裁判を振り返って

一審では証人尋問も行われて嶋津さんが国の施策の無意味を指摘したりできたが、舞台が高裁に移されてからは裁判所で進行協議が繰り返されて、なかなか前に進まなかった。後半は弁護団も裁判所も政治の思惑に翻弄されたと思う。

#### ●裁判を通じて得たもの

埼玉の方は利水以外の分野に力を注ぐことができなかったが、高橋利明団長はじめ皆さんが本当に奮闘して一線の利水治水の議論ができた。国交省が同じ施策を続けていくなら同じようなことになり、そのとき必ず役に立つものできた。

今はこの裁判の総括の資料作りのことと、保存のこと、使いやすくするにはどうしたらいいかとか、引き続き弁護団でやっています。

#### ●ハッ場ダム裁判が勝てなかった理由

従来だと公共事業をとめるためには周辺住民の方が施設の危険性などを指摘して裁判を起こすというのが一般的だったものを、ハッ場ダム裁判は監査請求、住民訴訟というツールを使って住民訴訟をしました。



戦った結果として出てきたのは「著しく不当」というレベルで止められるということが今回否定された。河川法とか個別の法律の中で規定されている要件とからめて主張してきたが、裁判所はいやがって全部一般論の方にもっていった。大法廷を開いてもらえなかったことでも感じますが司法は逃げたと思います。

止められなかったことは申し訳ないなと思っています。この12年本当にお世話になりました。ハッ場ダムに注視してゆくのは大切なことで、僕らも関心持ち続けてゆきたいと思っています。

### ダム偏重をやめ、 住民の安全守る河川行政を

＊梅村さえこ衆議院議員

国会で鬼怒川の決壊問題について質問しました。視察では国交省が「ダムがあったから被害があれほどで済んだ」と繰り返し言っていたが、



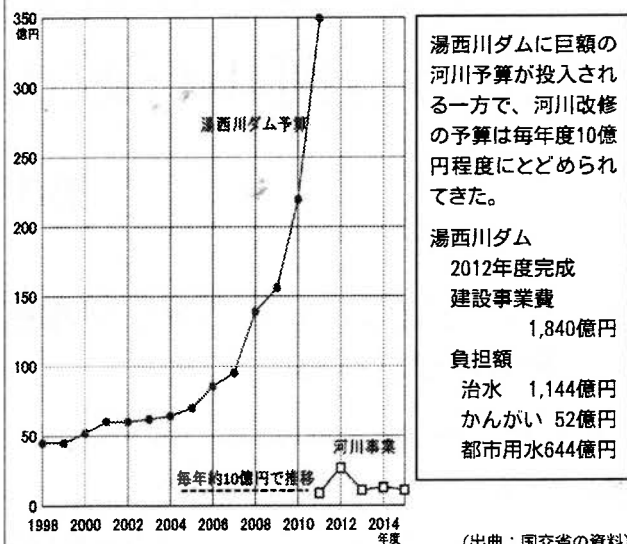
現地の方たちは「被災者」でなく「被害者」だという認識でいる。

栃木県側が60何%の河川整備率に対して、茨城県の整備率が17%でしかなく、湯西川ダムの予算は全部で1800億円

で、ある年は年間350億円使っているのに、鬼怒川の河川改修は毎年10億円というダム偏

重の政策。住民の安全を守るためにきちんと河川行政をやってくれと、この問題について今は攻め時だと思う。

鬼怒川の河川予算の推移



〔注〕湯西川ダム予算は国交省の資料より作成。河川事業予算は2016年2月24日衆議院総務委員会の国交省答弁による。

## 3/19 (土) ハッ場ビデオ上映と嶋津暉之さん講演



昨年最高裁で「ハッ場ダム住民訴訟」の敗訴が決定しましたが、裁判を通じてことごとくハッ場ダムの不要性と不当性を明らかにしてきました。このまま造らせてはいけない、後世のためにできることをやってゆこう、という共通の意思を確認できた集まりとなりました。

総会に先立って「ハッ場あしたの会」作成の『ハッ場ダム 現地は今?』のビデオ上映があり、本体工事が始まり無残に自然が破壊される様子が紹介されました。

### 第一部

## 「鬼怒川の堤防決壊が 求める河川行政の転換」

嶋津暉之さん



### 1. 河川行政の誤りと不手際が水害 を引き起こした

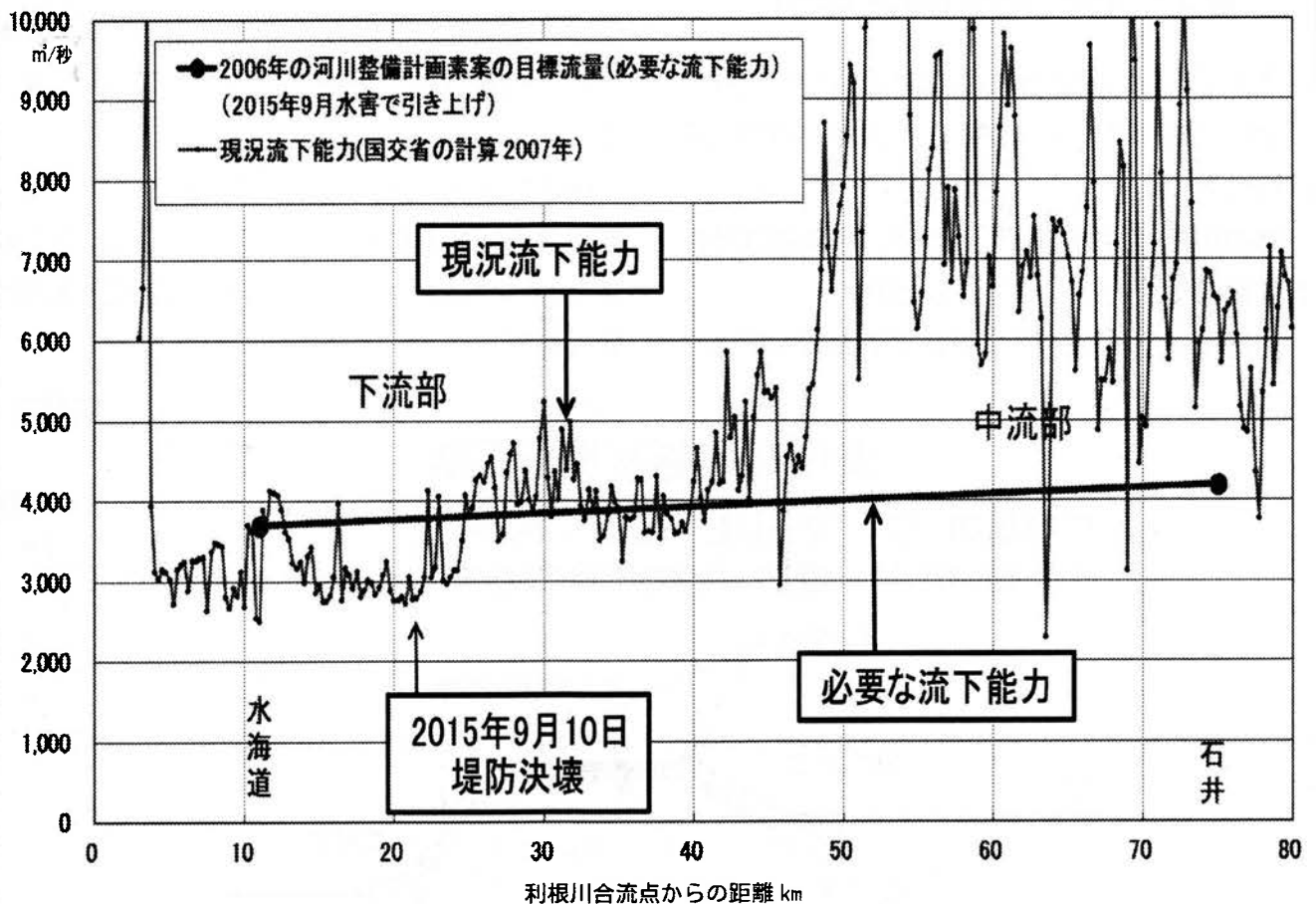
すさまじい水害は「破堤」と「越水」と「八間堀川氾濫」の三つの要因で起きた。

鬼怒川の上流側は栃木県、下流側は茨城県だが、下流側の堤防の整備は17%にとどまり、

整備の遅れが今回の結果をひきおこした。

昨年9月に敗訴が決まった栃木県の裁判では、今回破堤した堤防の低い部分の危険性を指摘した。必要性が稀薄な湯西川ダムばかりに河川予算を使うのでなく、下流の堤防整備に力を注ぐべきであると指摘したが、残念ながら判決には反映されなかった。

## 鬼怒川の目標流量と現況流下能力（左岸）



(国土交通省の2007年開示資料から作成)

鬼怒川下流部で流下能力が著しく不足しているところ（21km地点、三坂地区）で、洪水が越流して堤防を洗掘し、破堤に至った。

国交省が一年ちょっと前に作った改修計画を見ると、今回破堤した三坂地区は20～30年以内に改修を行うところになっていて後回しにされていた。

若宮戸でメガソーラーの太陽光パネルを設置するために自然堤防を削られて越水が進んでしまったが、国交省はこの場所を河川区域としてこなかった。

八間堀川は鬼怒川と小貝川の川の間を流れていて、普段はあまり水が流れていないが、今回は鬼怒川からの氾濫水が流れ込んだ。最下流の八間堀川排水機場の運転を長時間停止したため、八間堀川もひどく氾濫した。

## 2. 上流の四つのダムは効果があったのか

五十里ダム、川俣ダム、川治ダム、湯西川ダムと容量の大きなダムがあっても水害を防げなかった。国交省はしきりにダムのおかげで被害が少なくなったと喧伝しているが、ダムによる下流部での流量の減少は5%程度。ダムは上流部では効果があっても、下流に行くと効果が減衰してしまう。川治ダムは満杯になって一時避難命令が出た。ダムは満杯になると機能を失い、かえって危険な存在となる。

→ダムに頼った河川行政は誤りだった。



### 3. これからは河川行政を 変えてゆかなければならない

今まで危ないというところが放置されてきた。越水しても壊れにくい安価な耐越水堤防の工法技術はすでにできている。

一部の川では実施されていたが、国交省はそれを進めようとしなかった。なぜか。

川辺川ダムの住民討論集会で千人以上集まっ

た。

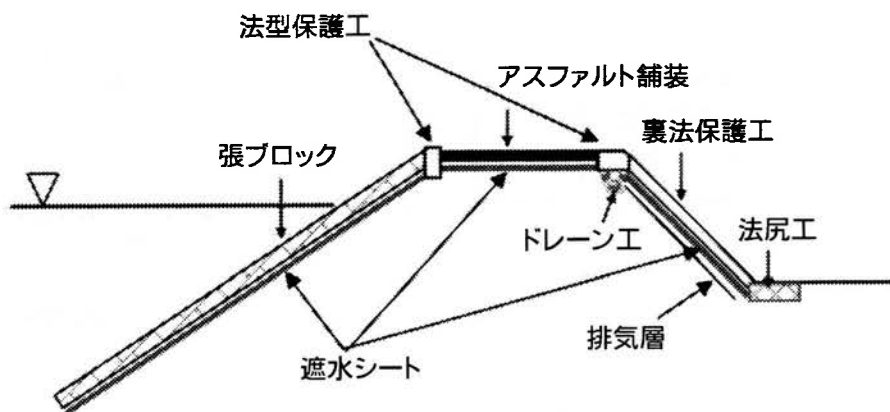
そこで住民側がこの工法でやればダムが必要ないと指摘し、国交省はこの工法がダムを造るための邪魔になると考え、お蔵入りにしてしまった。

後は耐越水堤防を普及させるとともに、降った水が末端で溢れてしまう「内水氾濫」への対策と、「危険な場所に住まない」流域治水の展開が急務。

#### 安価な耐越水堤防工法

鎧型堤防（アーマーレビー armor levee）

出雲川の耐越水堤防（1999年度に完成）（淀川流域委員会の資料より）



1メートルあたり50～100万円で整備できる安価な工法である。しかし、国交省は2000年代になって川辺川ダム等の建設推進の障壁になると考え、耐越水堤防の普及にストップをかけた。

## 第二部 「ハッ場ダム問題」

### • ダム工事は進んでいる

本体の基礎岩盤掘削工事が昨年1月から残念ながらことに始まった。

国交省の予定では基礎岩盤掘削工事は今年の4月までに終え、6月からコンクリート本体工事を始める。

2019年度からは試験湛水。2020年3月には完成させるという予定。

移転に抵抗していた人に対して、本人だけでなく周りの人間にまで圧力をかけてきた。

### • 地質の問題

前門の虎＝ダムサイト 後門の狼＝貯水池周辺 いずれも地質が脆弱

昭和45年の国会では今のダムサイトの場所は危ないとされていたが、吾妻溪谷への影響を考慮して48年に現在の場所に変わった。

貯水池予定地の周辺は熱水変質帯、応桑岩屑流堆積物、崖錐堆積物などの脆弱な地層が広く分布。

**●事業費の増額は避けられない**

2011年国交省も地滑り対策などで180億円の増額の試算をしている。

これからなんだかんだで500～600億円の増額はあってもおかしくない。

関係都県は増額に反対している。先行き混沌とした状態が続くだろう。

**●鉄鋼スラグ問題**

渋川にある大同特殊鋼という大きな会社。廃棄物処理法に違反してハッ場ダムの代替地の造成や道路工事などにも大同の鉄鋼スラグがたくさん使われた。有害なフッ素と六価クロムが含まれていることと、前処理が不十分であるため、使った先で膨張するのが問題。

2002年の終わりから、禁止された2014年1月まで、総量として29万トンが搬出された。

産業廃棄物の処理場をつくると、1トン当たり2～3万円かかるので、大同は1トン当たり100円で販売した。

一方で販売管理費として250円以上支払い、運送費も負担するので、大同にとって数千円かかるが、2～3万円の処理費と比べれば、はるかに安上がりだった。

2010年に群馬県の倉嶋建設政策室長が「鉄鋼スラグをどんどん使いなさい」という通知を出した。「鉄鋼スラグを天然砕石と混ぜてから有害物質の濃度を測ってよい」という通知が出て、鉄鋼スラグがどんどん使われた。

国交省はハッ場ダムの関連工事箇所鉄鋼スラグの調査をしたが、それは氷山の一角を調べただに過ぎない。

国交省は表面的な調査で、幕引きを図ろうとしている。

今後、鉄鋼スラグがハッ場ダムの代替地等で大きな問題になると思われる。

2018年度中にはダム本体が出来上がって、2019年度には試験湛水となっているが、実際にどうなるか、まだまだわかりません。

ダムサイトの地質もどうなるか、わかりません。水を貯めると貯水池周辺の地質問題もあります。事業費増額問題もあります。鉄鋼スラグ問題も暗い影を投げかけております。

状況は厳しいですけど、われわれは引き続き、ハッ場ダム事業をしっかり監視し、問題を提起していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

## 質疑応答

**Q.** なぜ国交省はダムにこだわっているのか。

**A.** 新規のダム計画はないけれど、いまあるダム計画はなんとしても造りたいと固執している。大きな工事では建設会社だけでなく、調査会社にも大きな仕事が入る。建設会社や調査会社に官僚が天下りしている。

政官業のトライアングルと言われているが、一番大きなのは官僚の天下り先の確保だと思われる。現在、止まっていたダム計画が次々と動

きつつある。

**Q.** 荒川の河川整備計画が策定されたが、川越線の鉄橋部分など低いところが残って氾濫の危険性が残るのでは。

**A.** 地盤沈下が起きて堤防は土でかさ上げしたが、鉄橋は莫大な費用がかかるので下流部では四か所が取り残されている。荒川の河川整備計画では1か所は鉄橋の嵩上げが行われることになっているが、他の3か所は低い鉄橋が残る。

## インフォメーション

春のハッ場ダム予定地見学会 **5月22日(日)**

◎健脚向き 真田道を歩く パート②

代) 募集人数: 20名

見学地: 吾妻溪谷遊歩道、小蓬萊(見晴台)、  
道陸神峠への古道、ハッ場ダム本体  
工事、ハッ場ダム本体工事(展望台、  
作業ヤード)、水没予定地など

\*申し込み・問い合わせ ハッ場あしたの会  
バスが満席になれば受付を〆切ります。  
お早めにお申し込みください!

日時: 5月22日(日) 12時半~17時20分

メール: info@yamba-net.org

集合場所: JR吾妻線「川原湯温泉」駅前

ファックス: 027-253-6707

参加費: 2,500円(バス代、保険料、資料

携帯090-4812-7073(渡辺)

●ハッ場ダムの裁判闘争は最高裁決定で終了しました。ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会(以下、埼玉の会と略)は、裁判が始まる前に設立され、今日まで様々な活動を続けてきました。裁判で「正義は勝つ」なんてことは願望に過ぎないことは、昨今の原発訴訟をみてもはっきりしています。

裁判は、多くの人と問題を共有するための手段であり、裁判所外の広範な大衆運動がなければ裁判で勝利するのは無理だと思います。反原発の

広範な世論があってさえ、原発差し止めはまだまだ少数派です(高裁~最高裁へ行けばゼロ?)。

裁判所の状況については前号で河登さんが瀬木さんの本を紹介していますが、加えて馬奈木昭雄さんも紹介しておきたい。馬奈木さ

んは水俣訴訟や有明訴訟を担っている弁護士で「たたかいの主戦場は法廷の外にあり」をモットーとする方です。ハッ場ダムが裁判では止まらなかったのは、ある意味仕方のないことだったと思います。

●これからの活動については巻頭の河登さんの話の中にありますが、私としては、ハッ場問題の追跡と共に、埼玉県民にとっては利根川より身近と思われる荒川に関する問題を取り上げていきたいと考えています。

●今号から、編集担当が一部交代し、体裁がA4判に変更になりました(私はB5判が好きなんだけどウーマンパワーには勝てない)。サイズが大きくなった分だけ内容も豊富にすることを心がけます。皆様もぜひご寄稿下さい。(大西記)

## 編集後記



## ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

事務局: さいたま市桜区大字神田288-3-203(大高方)

☎&amp;fax: 048-826-6178

ブログ <http://yambasaitama.blog38.fc2.com>